

KOKUSHIKAN

2023
国士館要覧

建学の由来と理念

日本は明治維新後、西洋文明を積極的に受容し、社会の近代化を急速に推進してきました。このため社会はおおいに伸張を遂げましたが、あまりに急激な近代化であったため、伝統文化を破壊し、軽視する風潮さえ生じました。日露戦争後には、国内問題が悪化し国民意識が変化するなかで、さまざまな社会問題が発生し、深刻な社会不安が引き起こされました。

このような当時の社会状況を憂い、柴田徳次郎ら有志は、日本の「革新」をはかるため、「社会改良」と「青年指導」を目的として1913(大正2)年「青年大民団」を組織し、1917年、「活学を講ず」の宣言とともに、私塾「国士館」を創立するに至りました。

創立者たちのねらいは、吉田松陰の精神を範とし、教学の適地として世田谷の松陰神社隣接地に学舎を建設し、「国士館設立趣旨」でうたわれているように、日々の「実践」のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材「国士」を養成することになりました。

以来、「国士」養成を理念として、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」の三綱領を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を世に輩出してきました。

今日、国士館は、このような建学の志を大切に継承しながら、新たに発展を遂げた研究教育の諸領域でも、知識と実践の水準を高めつつ、世界の平和と進運を目指し、現代社会に積極的に貢献する真摯な努力を続けています。

国士館館歌

作詞 柴田徳次郎
作曲 東儀鉄笛

一、

霧わけ昇る陽を仰ぎ
梢に高き月を浴び
皇国に殉す大丈夫の
ここ武蔵野の国士館

二、

松陰の祠に節を磨し
豪徳の鐘気を澄す
朝な夕なにつく呼吸は
富嶽嵐の天の風

三、

区々現身の粗薪に
大覚の火を打ち点し
三世十方焼き尽す
至心の焰あふらばや

建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」を目指す。

教育理念

「国士」養成のため、四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を兼ね備える教育を行う。

「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと

「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をすること

「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと

「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

教育指針

四徳目を備えるには、不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。

「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること

「体験」とは、智慧を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること

「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること

「思索」とは、省みた内容を検討し、次なる目標を立案すること

2023 国士館要覧 CONTENTS 目次

02	ごあいさつ
04	データで見る国士館
06	TOPICS
07	SCENE OF KOKUSHIKAN
08-13	データファイル2023
08-09	基礎データ
10-11	国際交流/就職実績
12-13	研究実績/財務状況
14	組織
15-17	キャンパス・施設概要
	世田谷キャンパス
	町田キャンパス
	多摩キャンパス
	国士館楓の杜キャンパス
	多摩南野キャンパス
18-21	歴史
18	創立者
19	年表
20-21	設置学校の変遷

学園章 全学の総意で決めた「楓」

国士館が麻布^{こうがい}筈町から、世田谷の松陰河畔に移ったのは1919(大正8)年。その前年、国士館創設の同人たちは揃って松陰神社に詣でています。激動の幕末期、思想家、教育者として峻烈な生きざまを貫き通した吉田松陰に寄せる彼らの崇敬の念は篤く、新生国士館を松下村塾の系譜を継ぐ学塾に育て上げたいと請い願ったのです。

社の境内には大和魂を表する桜樹と、松陰の熱き血潮を彩った楓の古木があります。国士館高等部(現在の大学の前身)建学式の朝、創立者の柴田徳次郎は、朝日を受けて真紅に映える楓を見て松陰の赤心に思いを致し、楓を校章にと胸中ひそかに意を決したといいます。1920年の春、その思いを国士学生会(学生の自治組織)に語り、学生会もまたこれに賛同し、全学の総意によって、校章は「七生報国の士を象徴する七片の楓葉」と決まったのです。



コミュニケーションマーク

地球を意味する円弧に歴史と将来への希望を表すエレメントが交差して、英文表記の「Kokushikan」のイニシャル「K」を象っています。多くの人間が集い、その文化や知識、技術が「活発に交流」し、活気に溢れた国士館となるよう、社会に向かって開かれた学園、オープンでグローバルな学園のイメージを表現しています。カラーは、深紅の楓にも由来し、「情熱」や「喜び」を表すオリジナルカラーの「国士館レッド」です。1997(平成9)年の創立80周年記念事業の一環として制定されました。



ごあいさつ

国士館は1917(大正6)年に私塾「国士館」として創立し、1958年に国士館大学を創設して以来、皆様からの厚いご支援により、大学7学部・大学院10研究科および高等学校、中学校を擁する総合学園として発展してまいりました。

「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」を旨とする建学の精神は、創立から106年目を迎えた今もなお、本学園の教育活動の指針として貫かれています。本学が教育理念とする「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を掲げ、人材育成の要諦とした創立の趣旨を、時代に応じた教育活動に昇華させていくことが、継承する私たちの使命であると考えます。

昨今、私たちを取り巻く環境は激しく変化しています。世界情勢の大きな変動の渦中にあっても、本学は独自の強みや特色を發揮し、教育研究環境の維持と向上を図るため、さまざまな取り組みを進めています。

令和4年度は、コロナ禍で制限されていた海外渡航が緩和され、学生の海外研修・留学をはじめ、国際プロジェクトへの参画、エジプトやカンボジアへの人材育成協力など、国際的な視点で質の高い教育研究、社会貢献に再び取り組んだ年となりました。地域社会をフィールドとした教育研究活動も広がりを見せ、自治体や地域との連携強化を図りながら教育研究成果の還元にも、引き続き注力してまいります。

さらに、これまでに1,100人以上の防災士を輩出するなど、本学園が10年来継続する防災教育が着実に実を結んでいることを土台として、自然災害が頻発する日本において、今後も防災時に迅速適切な行動で周囲の支えとなる防災リーダーを養成していく所存です。

第2次中長期事業計画の実行も残すところ約2年となりました。来る創立110周年に向け、ソフトとハードの両面一体となった教育研究環境の整備を中核とする第3次中長期事業計画の策定を進めます。今後も社会に求められる学園であり続けるため、揺るぎない社会的使命のもと、新たな歴史の創造に向け歩みを進めてまいります。

令和5年4月7日、式典会場となったパシフィコ横浜には「国士館大学入学式」と表示された立て看板を背景に、記念撮影に興じる大勢の新入生・ご父母そしてご家族の嬉々とした姿がありました。きらめく春の息吹のごとく、新入生の満面の笑みからは最高学府という新たなステージへの期待とともに、猖獗(しょうけつ)を極めたコロナ禍の高校3年間に耐え抜いたことの安堵、そして解放感が伝わってきました。教職員一同、これからの学生生活が希望に満ち溢れ、実り多いものとなることを願わずにはられません。

コロナ禍は漸く終息へと向かいつつありますが、世界は、気候変動、貧困格差、国際法を無視した軍事侵攻等、自らの生活や生命を脅かす困難で予測不可能な時代が到来しています。私たちは誰もが答えを用意することができず、また既存の答えでは対応できない時代を生きています。

こうした混迷の時代を生き抜くために、現在、本学では困難に耐える自律的人間(=課題解決型人材)の養成を目的として「全学共通教育科目」の設置を鋭意進めています。それは、総合大学としての本学の強みを生かし、これまで1~2年に設定されていた総合教育科目を全面的に改め、4年間を通して履修することによって、専門分野、文系理系を融合して考え判断する思考力、人間存在に関する深い洞察力、現実を適切に理解し人間らしく生きるための理性、異なった意見にも耳を傾ける寛容力などの開発と高揚を促します。また、本学の歴史、建学の精神・教育理念を学ぶ自校史教育の拡充を図り、より一層大学名にも冠した「国士」の養成に努めてまいります。

加えて、DX化が急速に進展する社会にあって、文系理系を問わず「データ分析や活用に必要な知識とスキル」を修得させ、社会課題の解決に生かすことのできる人材養成のため、今春からは「AIとサイエンス」を全学部で必修科目としました。

伝統とは時代に対応しなければ、その輝きは失われるものです。先人達が辛苦を重ねて築きあげてこられた尊い歴史と伝統を後世に継承させるために、そして国士館大学が選ばれる大学であり続けるためにも不断の改革を実行してまいります。

学校法人国士館 理事長

大澤 英雄

おおさわ ひでお



1936年北海道生まれ

1960年国士館大学体育学部卒業

1960年本学に入職。1981年体育学部教授
1992年から2001年まで同学部学部長、2003年から2006年まで国士館大学学長

2006年本学名誉教授、学校法人国士館常任理事、2008年学校法人国士館副理事長を務め、2009年4月学校法人国士館理事長に就任

1992年から2004年まで財団法人日本サッカー協会理事・特任理事、1998年から2004年まで全日本大学サッカー連盟理事長、2004年から2006年まで全国体育系大学・学長学部長会会長、2008年から全日本大学サッカー連盟顧問、2014年から2022年3月まで一般財団法人関東大学サッカー連盟会長、2022年4月から同連盟顧問、2015年からNPO法人日本サッカー指導者協会理事長

2009年から全国体育スポーツ系大学協議会理事、2022年10月から同協議会副会長、2012年から日本私立大学協会理事、2020年から同常務理事、2021年から一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)理事

2015年から公益財団法人私立大学退職金財団監事

2019年旭日中綬章受章

国士館大学 学長

佐藤 圭一

さとう けいいち



1955年青森県生まれ

1979年国士館大学政経学部卒業

1984年国士館大学大学院政治学研究科政治学専攻博士課程修了、2006年博士(政治学)(国士館大学)

1984年宗教研究所助手として入職。1987年宗教文化研究所講師、2002年政経学部二部教授、2003年政経学部教授。2012年大学院政治学研究科長、政経学部政治学科主任を2期(2002年から2003年、2006年から2008年)、同学部教務主任を3期(2003年から2004年、2004年から2005年、2007年から2010年)務める

2015年12月国士館大学学長に就任

2014年から比較憲法学会理事

2002年受賞学術賞：田上穠治賞(比較憲法学会)

専門はアメリカ政治史

本校は、生徒一人一人の感性を深め、豊かな人間性を涵養することを大切にしています。その理念と特色は本校の教育活動に反映され、多くの同意と、保護者の皆様の理解と支援によって今日を迎えております。国士館創立106年を迎えた現在、本校の2万7千人を超える卒業生は、国内はもとより世界の各分野で活躍しています。

創立者の柴田徳次郎先生は、共に助け合い、人々のために奉仕できる豊かな心を育むための人間教育を重視されました。それは、国士館の「建学の精神」「教育理念」「教育指針」として掲げられ、本校の教育目標としてまいりました。現在まで脈々と受け継がれてきたこれら指針は、本校で学ぶ3年間および6年間を通じて、人や文化の多様性を知り、礼儀や心身の鍛錬を学び、責任ある行動で積極的に社会参画ができるように、一人一人の成長を促すための教育プログラムとして展開されており、新たに本学園の特色の一つとして取り組む防災教育もその一つです。

少子高齢化の進展、AI(人工知能)の発展、グローバル化の拡大など、社会環境が大きく転換している中、全生徒に電子黒板と併用可能なタブレット端末を貸与するなどICTを活用した学習環境の充実を図り、学力向上と教育の質保証に努めています。さらには、学びの定着をより高めるための朝学習をはじめ、放課後や部活動終了後にも利用できる自学自習の学習システム「K-Improve」を導入し、質問に対応するチューターを配置しています。特に中学校では、体験型カリキュラムを通じた課題解決力の育成を図り、英語に親しむことを目的とした専用施設での宿泊研修や、心の成長を育むための「エゴグラム」の活用などを通じて、基礎学力の向上とグローバル教育に力を注いでいます。

また、系属校としての利点を生かしたキャリア教育として、国士館大学の大学・学部説明会やキャンパス見学を実施して、大学学部教育への理解促進を図る取り組みを行っています。

令和5年度からは高校昼間定時制課程を国士館大学進学クラスとし、少人数制・習熟度別授業を取り入れた国士館大学進学に特化したカリキュラムで生徒の資質・能力の育成を目指しています。

本校は実績を着実に積み重ねつつ、さらなる学習環境の整備を進め、オンリーワンの教育活動に邁進してまいります。

国士館高等学校・中学校 校長

岩淵 公一

いわぶち こういち



1955年岩手県生まれ

1978年国士館大学体育学部卒業

1979年国士館高等学校(全日制)・中学校の常勤講師として入職。1980年教諭、2016年副校長、2019年国士館高等学校・中学校校長に就任

1988年から2022年3月まで国士館高等学校柔道部監督として幾度となく全国制覇に導いたほか、オリンピックをはじめ世界大会で活躍する選手を多数輩出、2022年4月から同部部長に就任

2008年から2021年まで全日本柔道連盟強化委員会特別委員、2010年から2021年まで日本オリンピック委員会強化スタッフ(マネジメントスタッフ)

2008年第29回オリンピック競技大会 文部科学大臣顕彰(スポーツ功労者顕彰)
2008年第29回オリンピック競技大会 優秀者表彰

2019年柔道八段昇格

役員等

[理事長]
大澤 英雄

[理事]
佐藤 圭一
長谷川 均
福永 清貴
横沢 民男
岡林 中今
石田 唱司
北村 滋
島崎 修次
瀬野 隆
福本 正幸
間瀬 誠吾
美納 淳一
山田 慎吾

[監事]
足立 禮一
今福 康夫

[評議員]
佐藤 圭一
岩淵 公一
岩元 浩一
表きよし
田原 淳子
二川 佳央
長谷川 均
福永 清貴
横沢 民男
斎藤 弘子
作田 英一
畑 勲
山根 潤
岡林 中今
加藤 純一
小泉 與七
坂本 勝矢
柴田 則夫
脇本 三千雄
安西 博見
押切 謙徳
北村 滋
小山 泰文
島崎 修次
瀬野 隆
福本 正幸
美納 淳一
矢野 博志
山田 慎吾

国士館大学

[学長]
佐藤 圭一

[副学長]
長谷川 均
辰野 文理

[大学院研究科長]

政治学研究科 …………… 上村 信幸
経済学研究科 …………… 許 海珠
経営学研究科 …………… 佐藤 圭一
スポーツ・システム研究科 …… 井上 誠治
救急システム研究科 …………… 田中 秀治
工学研究科 …………… 大浦 邦彦
法学研究科 …………… 森田 悦史
総合知的財産法学研究科 …… 三浦 正広
人文科学研究科 …………… 松野 敏之
グローバルアジア研究科 …… 高橋 伸子

[学部長]

政経学部 …………… 岩元 浩一
体育学部 …………… 山口 嘉和
理工学部 …………… 本田 康裕
法学部 …………… 飯塚 真
文学部 …………… 仁藤 智子
21世紀アジア学部 …………… 表きよし
経営学部 …………… 佐藤 圭一

[附属施設・附置研究所長等]

国際交流センター …………… 砂田 恵理加
図書館・情報メディアセンター … 中村 一夫
防災・救急救助総合研究所 …… 島崎 修次
地域連携・社会貢献推進センター … 村上 純一
ウエルネス・リサーチセンター … 永吉 英記
デジタルアーカイブセンター …… 佐藤 圭一

国士館高等学校・中学校

[校長]
岩淵 公一

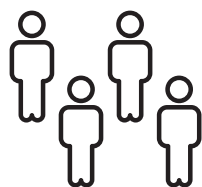
[副校長]
渡邊 隆

学部・学科・研究科数

7 学部 14 学科、10 研究科



1958年の大学設置以降、国士館大学は7学部10研究科を擁する総合大学へと発展しました。



学生数

12,686人

内訳：大学院288人、学部12,398人

学部生の地方出身者の割合

※東京圏（東京、埼玉、千葉、神奈川）
以外の出身者の割合

33%



国士館大学では、全国各地から学生たちが集い、それぞれの目標に向かって学んでいます。

[データで見る国士館]

KOKUSHIKAN

就職者数（令和3年度）

警察官100人 全国2位
消防官115人 全国1位

『大学ランキング2024』（朝日新聞出版）より

本学主催セミナー参加団体数

363団体



令和4年度に開催した本学主催セミナーには、主に民間企業を対象とした「就活！HOT SPACE」に175団体、「業界研究フェア」に188団体、延べ363団体が参加しました。

公務員就職者数（令和4年度）

458人

就職率（令和4年度卒業生）

96.7%

救急救命士合格者数（令和4年）

144人 全国1位

『大学ランキング2024』（朝日新聞出版）より

教員就職者数（令和4年度）

173人

内訳：高等学校27人、中学校33人、小学校81人、その他32人

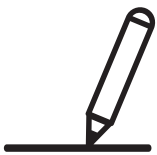
図書所蔵数

約88万5千冊

3キャンパスに図書館を設け、専門書など多くの図書を所蔵しています。



志願者数 (令和5年度入学者選抜)



13,546人

協定校・機関数

23カ国 1地域

55協定



卒業生数



約18万5千人

卒業生は国士館創立以来、18万人を超え全国で活躍しています。

留学生数

587人

12カ国1地域587人の留学生が国士館で学んでいます。

UNIVERSITY in DATA

防災士合格者数

(平成29～令和4年度累計)



1,161人 ※職員18人含む

本学では、防災リーダー育成のため平成25年度より防災リーダー養成カリキュラムを開講しています。平成29年度から本科目受講者は防災士の受験資格を得られるようになり、これまでに1,100人以上の防災士が誕生しています。

外部評価

12年連続 AA-

学校法人国士館は、2023年4月、株式会社日本格付研究所(JCR)より、12年連続で長期発行体格付で「AA-(ダブルAマイナス)」を取得するとともに、格付けの見通しは「安定的」との結果を得ました。



オリンピック・
パラリンピアン

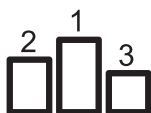
62人

メダリスト数

11人

本学はこれまでに62人のオリンピックを輩出しており、うち金メダル6人、銀メダル1人、銅メダル4人がメダルを獲得しています。

(国士館高校出身者2人を含む)



課外活動団体数

107 クラブ・サークル

スポーツ協議会が指定する34クラブを含む、多くのクラブ・サークルが活動しています。



大学(設置校)と学園(法人)に関する情報について、最新のデータを集積・整理した『IR Data Book』を公開。

「AIとサイエンス」全学部で必修化

令和5年度から全学部の新生を対象に、リテラシーレベルの科目「AIとサイエンス」を必修化しました。AI技術の急速な進歩で、データサイエンスの必要性が高まる中、多種多様な情報を効果的に活用するための基礎的な知識と技能の習得を目的としています。

また、本学のAI・データサイエンス教育の取り組みが、2022年8月24日付で、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されました。



彬子女王殿下による特別講義

本学人文科学研究科客員教授であられる三笠宮家の彬子女王殿下が2022年11月、「大英博物館のコレクションから知る日本のお茶の話」と題してご講義をなさいました。講義では、日本における煎茶の隆盛と外国人収集家による陶磁器コレクションとの関係性について話されました。



ENGSOユース主催のSDGsプロジェクトにアジアから唯一参加

欧州非政府スポーツ機構青少年部門(ENGSOユース)による「持続可能な開発のためのスポーツ国際プロジェクト」が2022年に行われ、オリンピック・ユースオリンピック開催国である日本・セネガル・フランスを中心に5団体・約40人の若手指導者や学生が参加しました。若年者に向けたスポーツと教育に関するプラットフォーム構築などを図るため、本学はアジアで唯一の参加団体となり、セネガル(ダカル)で青少年交流会、日本(東京)で若手指導者養成研修会、フランス(パリ)でプロジェクト総括会議を実施。東京研修では本学が幹事となり、7日間にわたり「SDGsに対してスポーツがいかに貢献できるか」をテーマに議論し、本学の施設見学や武道の練習体験などを通して交流を深めました。



多摩市より50周年記念感謝状を受贈

本法人およびウエルネス・リサーチセンターに対し、多摩市より50周年記念感謝状が贈られました。これは、多摩市の市制施行50周年にあたり、市の発展と市民の生活を支えた多くの市内団体と共に贈呈されたものです。

1992年に多摩キャンパスを開設後、さまざまな分野で連携事業を推進し、近年では東京2020大会で、多摩市のホストタウンであるアイスランドのオリンピック・パラリンピック選手団に対する練習施設の提供、子どもたちを対象にしたスポーツ教室の開催、多摩市民へのラジオ体操教室の開催など、同大会の機運醸成に貢献しました。

5カ国の協定校を招きアカデミックコンソーシアムを開催

2023年3月に、インターナショナルアカデミックコンソーシアム第1回セミナー(SIAC2023)を本学世田谷キャンパスで開催しました。SIAC2023は、大学におけるグローバル教育の課題などを共有する、次世代型協定校連携事業として本学が企画したもので、5カ国の協定校(タイ、カナダ、フィリピン、台湾、韓国)と本学の学生、教職員ら約60人がグループ討論などを通じて交流を図りました。



学生・職員159人が防災士資格を取得

本学は災害時にリーダーとして活躍できる人材育成を目的に全学で防災教育を進めており、令和4年度は学生141人と職員18人が防災士資格を取得しました。資格取得にあたっては講義と実技研修を、本学防災・救急救助総合研究所が担当しました。本学は防災拠点大学として、学生生徒への防災教育を進めるとともに、教職員においても発災時に迅速適切な行動で学生・生徒・地域住民を守ることでできる防災リーダーを養成しています。



格付評価は昨年に続き「AA-」／「安定的」を取得

本法人は、2023年4月26日付で株式会社日本格付研究所(JCR)より、昨年に引き続き長期発行体格付で「AA-(ダブルAマイナス)」の格付けを取得するとともに、格付けの見直しは「安定的」との結果を得ました。この「AA-」は、10等級ある格付けの上から2番目(AAレンジ)に位置し、「当面、一定の基本金組入前当年度取支差額を確保できる」と評価されました。

大学機関別認証評価で「大学評価基準に適合している」と認定

本学は、令和4年度に公益財団法人日本高等教育評価機構(JIHEE)が実施する大学機関別認証評価を受け、2023年3月14日付で「同機構が定める大学評価基準に適合している」と認定されました。同機構より認定を受けるのは、平成22年度、平成28年度に続き3回目となりました。



東京マラソン2023で体育学部
スポーツ医科学科の学生や教職
員、卒業生などが沿道救護として
大会をサポート

©東京マラソン財団



「国士館大学業界研究フェ
ア」では全国から約190
団体が出展



2021年7月以降延べ1万6325人に新型
コロナワクチン大学拠点接種を実施



「防災リーダー養成論(実習)」には
610人の学生が受講



SCENE OF KOKUSHIKAN



令和4年度交換留学生修了式
コロナ禍で令和2年度以降、留学生の受
け入れを中止していたが、2年半ぶりの受
け入れとなり、本学の学生と交流を深めた



令和4年度卒業式



一般来場が可能となった学園
祭では飲食露店が並び、地域
の方で賑わいをみせた



令和5年度入学式

学生・生徒数

*学生・生徒数は「学校法人基礎調査」(5/1現在)に基づいています。()は女子内数 (単位:人)

大学院	修士課程	257 (73)	288 (80)
	博士課程	31 (7)	
学部			12,398 (3,103)
大学院・学部合計			12,686 (3,183)

大学院	研究科	専攻	学生数	
			修士課程	博士課程
	政治学研究科	政治学専攻	20 (6)	8 (4)
	経済学研究科	経済学専攻	30 (7)	2 (0)
	経営学研究科	経営学専攻	26 (13)	0 (0)
	スポーツ・システム研究科	スポーツ・システム専攻	27 (5)	6 (0)
	救急システム研究科	救急救命システム専攻	8 (1)	6 (0)
		救急救命システム専攻(1年コース)	6 (0)	—
工学研究科	機械工学専攻	機械工学専攻	12 (0)	—
		電気工学専攻	7 (2)	—
		建設工学専攻	29 (10)	—
		応用システム工学専攻	—	2 (1)
法学研究科	法学専攻	19 (4)	1 (0)	
総合知的財産法学研究科	総合知的財産法学専攻	30 (11)	—	
人文科学研究科	人文科学専攻	人文科学専攻	6 (1)	2 (2)
		教育学専攻	13 (8)	3 (0)
グローバルアジア研究科	グローバルアジア専攻	グローバルアジア専攻	24 (5)	—
		グローバルアジア研究専攻	—	1 (0)
大学院計			257 (73)	31 (7)

学部	学科	学生数	学部別合計
政経学部	政治行政学科*	774 (145)	2,378 (370)
	経済学科	1,604 (225)	
体育学部	体育学科	984 (193)	2,348 (546)
	武道学科	388 (98)	
	スポーツ医科学科	643 (95)	
	こどもスポーツ教育学科	333 (160)	
理工学部	理工学科	1,465 (253)	1,465 (253)
法学部	法律学科	903 (257)	1,772 (455)
	現代ビジネス法学科	869 (198)	
文学部	教育学科	518 (247)	1,713 (631)
	史学地理学科	744 (176)	
	文学科	451 (208)	
21世紀アジア学部	21世紀アジア学科	1,488 (494)	1,488 (494)
経営学部	経営学科	1,234 (354)	1,234 (354)
学部計			12,398 (3,103)

高等学校・中学校	生徒数	
高等学校	全日制課程	955 (283)
	定時制課程	66 (13)
中学校	138 (24)	

*2016年 政治学科を名称変更

教員数

(単位:人)

大学	専任	その他	高等学校	専任	その他
大学			高等学校		
大学院	1	61	全日制課程	39	27
政経学部	44	86	定時制課程	8	5
体育学部	73	69	中学校		
理工学部	47	115		9	2
法学部	39	60	計	56	34
文学部	54	94	合計	368	657
21世紀アジア学部	25	56			
経営学部	22	79			
その他	7	3			
計	312	623			

*兼務を除く

職員数

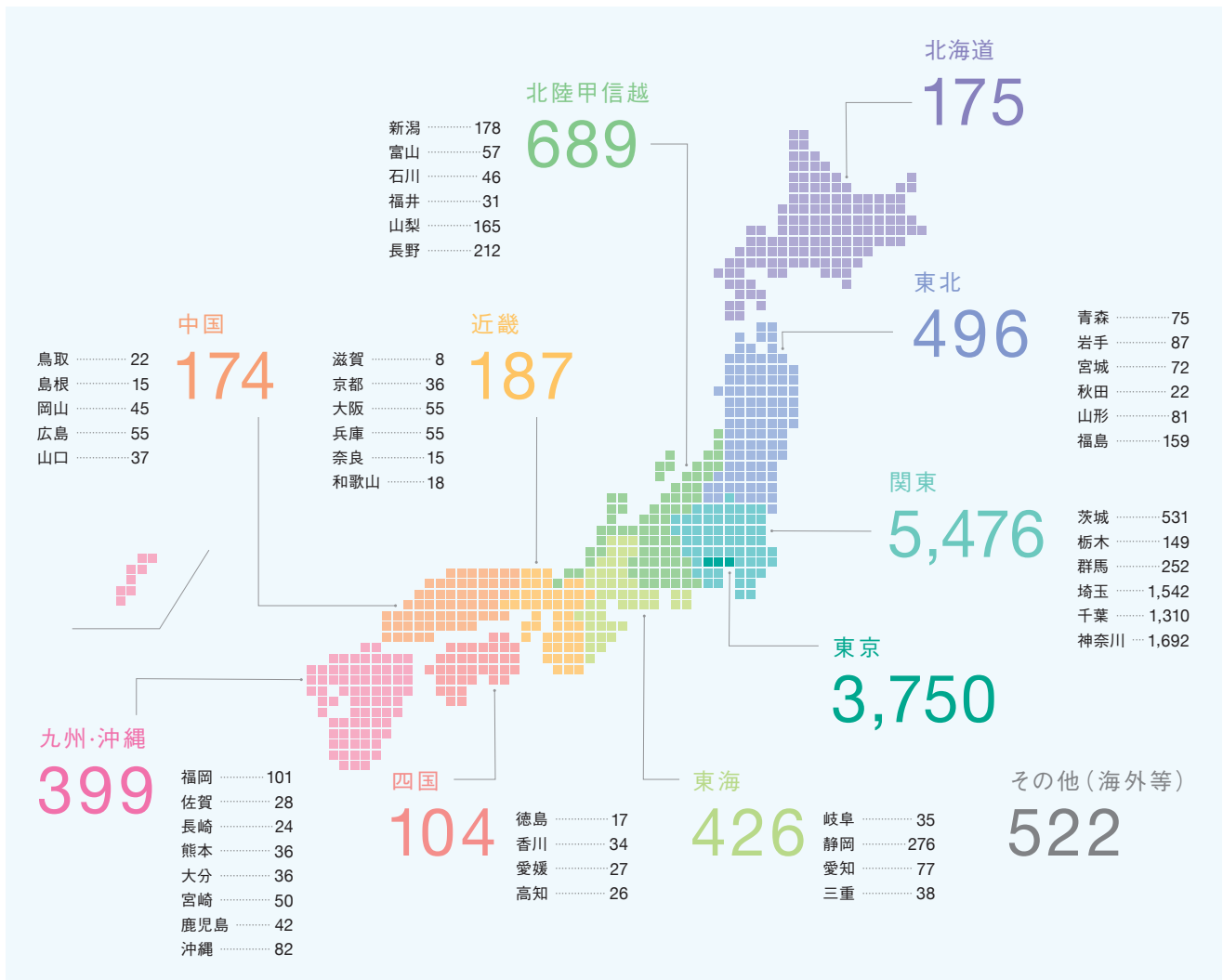
(単位:人)

法人	専任	その他
法人	69	32
大学	138	69
高等学校	5	6
中学校	1	2
合計	213	109

*派遣を除く

出身高等学校 所在都道府県別 学部生数

(単位:人)



キャンパス別学生数

(単位:人)

キャンパス	学生数
世田谷	8,772 (2,132)
町田	1,846 (659)
多摩	2,068 (392)
総数	12,686 (3,183)

()は女子内数

卒業・修了生数累計

(単位:人)

学部等	設置年	令和4年度 卒業・修了生数	累計
大学院	修士課程	1965(昭和40)年~	135
	博士課程	1965(昭和40)年~	4
	計		139
学部	政経学部 ^{※1}	1961(昭和36)年~	552
	政経学部二部	1965(昭和40)年~2007(平成19)年	—
	体育学部	1958(昭和33)年~	561
	理工学部 ^{※2}	1963(昭和38)年~	322
	法学部	1966(昭和41)年~	386
	文学部	1966(昭和41)年~	370
	21世紀アジア学部	2002(平成14)年~	326
	経営学部	2011(平成23)年~	275
計		2,792	
高等学校	全日制課程	1948(昭和23)年~	333
	定時制課程	1948(昭和23)年~(旧制・商業科含む)	28
	通信制課程	2000(平成12)年~2019(令和元)年	—
	工業科	1963(昭和38)年~2006(平成18)年	—
	計		361
中学校	旧制	1925(大正14)年~1949(昭和24)年	—
	新制	1947(昭和22)年~	40
計		40	
福祉専門学校	1995(平成7)年~2007(平成19)年	—	333
その他(短期大学等)		—	8,863
合計		3,332	185,676

※1 政経学部一部含む ※2 2007年 工学部を改組

出身国(地域)別留学生数

(単位:人)

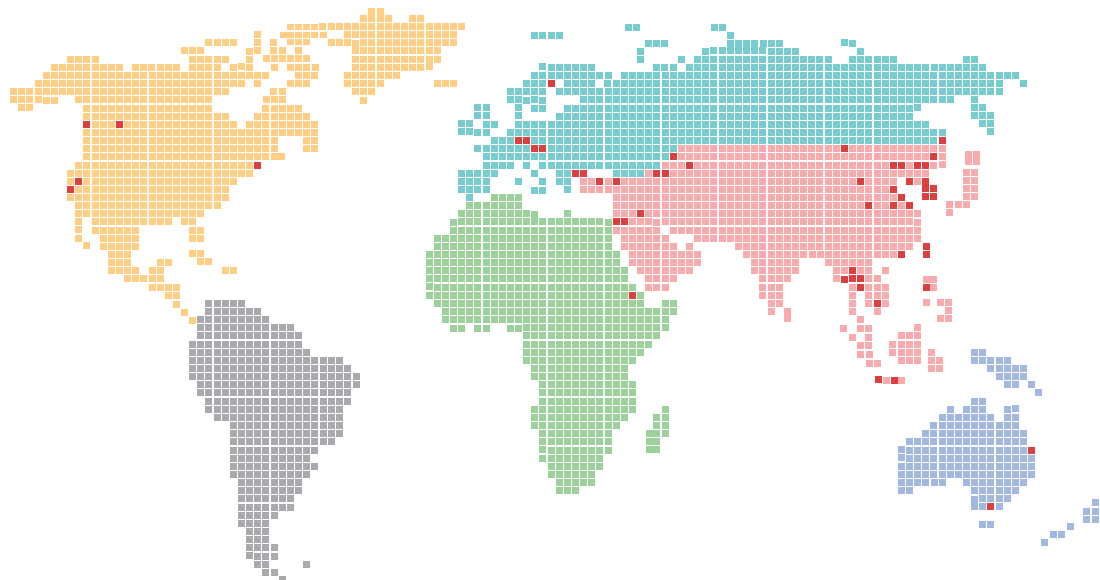
国名	修士	博士	政経学部	体育学部	理工学部	法学部	文学部	21世紀 アジア学部	経営学部	合計
中国	106	8	56	3	56	17	12	181	79	518
韓国		1	2		6	1	1	19	5	35
台湾	1		1		3			4	6	15
モンゴル	2							2	1	5
インドネシア		2	1							3
ケニア								2		2
コンゴ				1				1		2
ベトナム	1							1		2
カナダ									1	1
タイ								1		1
ネパール								1		1
マリ								1		1
マレーシア					1					1
合計	110	11	60	4	66	18	13	213	92	587

*正規課程在籍留学生数

海外協定校・機関 23カ国1地域/55大学・機関

地域	所在地	大学名	地域	所在地	大学名
アメリカ	ニューヨーク	セント・ジョンズ大学◆	フィリピン	マニラ	デ・ラ・サル大学
	カリフォルニア デイビス	カリフォルニア大学デイビス校◆	ベトナム	ホーチミン	ベトナム国家社会人文学科大学(USSH)
	カリフォルニア サンフランシスコ	サンフランシスコ州立大学	インドネシア	ジョグジャカルタ	ガジャマダ大学
クラムブルック	カレッジ・オブ・ザ・ロック◆	ソロ		セブラスマル大学	
カナダ	バンクーバー	サイモン・フレーザー大学	タイ	バンコク	チュラロンコン大学
	ブリスベン	グリフィス大学◆		タイ国立救急医療センター	ナワミンタラティラード大学
オーストラリア	クレイトン	モナッシュ大学		チェンマイ	チェンマイ大学
	ソウル	漢陽大学校	ミャンマー	ヤンゴン	ヤンゴン大学
韓国	釜山	高麗大学校		ハンガリー	ブダペスト
	慶尚北道	東義大学校◆			ハンガリースポーツ科学大学
	光州	国立安東大学校	ドイツ	ミュンヘン	ミュンヘン大学
		国立全南大学校		コブレント	コブレント・ランダウ大学
中国	北京市	北京師範大学	ロシア	ウラジオストク	極東連邦大学
		北京工業大学◆	ウズベキスタン	サマルカンド	国立サマルカンド外国語大学
	山西省	山西大学		タシケント	世界経済外交大学
	江蘇省	蘇州大学	キルギス	ビシュケク	キルギス国立総合大学
		蘇州城市学院		カザフスタン	アルマトイ
	黒龍江省	黒龍江大学	エチオピア	アディス・アベバ	アディス・アベバ大学
	上海市	上海対外経貿大学	イラク	バグダッド	イラク国考古遺産庁
	湖北省	武漢大学		ヨルダン	イルビド
	吉林省	吉林大学		アンマン	ヨルダン考古庁
	遼寧省	大連外国語大学	ブルガリア	ソフィア	国立スポーツアカデミー
		大連東軟信息学院		ヴェリコ・ダルノヴォ	ヴェリコ・ダルノヴォ大学
	広東省	深圳職業技術学院	トルコ	バン	ユズンジュ・ユル大学
山東省	青島大学	アンカラ		ハジェットテッペ大学	
台湾	台北市	中国文化大学	スウェーデン	ルレオ	ルレオ工科大学
モンゴル	高雄市	国立中山大学			
	ウランバートル	モンゴル国立大学			

◆海外研修校



主な就職先 (令和4年度)

政経学部

アイリスオーヤマ(株)
 (株)イオン銀行
 (株)エービーシー商会
 (株)京葉銀行
 国際航業(株)
 (株)常陽銀行
 (株)ジーユー
 (株)セブンイレブン・ジャパン
 (株)ZOZO
 (株)ダスキン
 (株)ニトリ
 日本マクドナルド(株)
 羽田空港サービス(株)
 三井不動産ビルマネジメント(株)
 みずほ証券(株)
 (株)USEN-NEXT HOLDINGS
 (株)横浜銀行
 (株)リクルート
 リコージャパン(株)
 警視庁ほか都道府県警察
 東京消防庁ほか消防
 都道府県市区町村公務員

体育学部

(株)アクティオ
 旭化成(株)
 四季(株)
 (株)清水銀行
 スズキ(株)
 スターバックスコーヒージャパン(株)
 (株)セルビア(FC町田ゼルビア)
 (株)染めQテクノロジー
 東海旅客鉄道(株)
 東京ヴェルディ(株)
 (株)東京ドームスポーツ
 (株)ニトリ
 (株)ファミリーマート
 ミサワホーム(株)
 (株)モンベル
 警視庁ほか都道府県警察
 東京消防庁ほか消防
 都道府県市区町村公務員
 公立私立学校教員
 自衛隊

理工学部

エクスプライス(株)
 清水建設(株)
 スズキ(株)
 積水ハウス(株)
 セコム(株)
 大成建設(株)
 タイダン(株)
 大和ハウス工業(株)
 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)
 日本テキサス・インスツルメンツ(同)
 富士ソフト(株)
 富士電機(株)
 三井ホーム(株)
 水戸証券(株)
 美和ロック(株)
 警視庁ほか都道府県警察
 都道府県市区町村公務員
 公立私立学校教員
 自衛隊

法学部

アパグループ(株)
 (株)サイサン
 三甲(株)
 全国共済農業(協組連)
 大和地所レジデンス(株)
 トヨタモビリティ東京(株)
 日本年金機構
 フジバングループ本社(株)
 (株)星野リゾート・マネジメント
 (株)マイナビ
 明治安田生命保険(相)
 ヤマト運輸(株)
 楽天銀行(株)
 (株)LIXIL
 リコージャパン(株)
 警視庁ほか都道府県警察
 東京消防庁ほか消防
 都道府県市区町村公務員
 東京国税局

文学部

国際航業(株)
 スターバックスコーヒージャパン(株)
 セブネット(株)
 大和ハウス工業(株)
 地方独立行政法人東京都立病院機構
 東武トップツアーズ(株)
 (株)ハードオフコーポレーション
 (株)びえろ
 (株)ビックカメラ
 富士ソフト(株)
 北海道地図(株)
 (株)ユナイテッドアローズ
 (株)ヨドバシカメラ
 ヨネックス(株)
 警視庁ほか都道府県警察
 東京消防庁ほか消防
 都道府県市区町村公務員
 公立私立学校教員
 自衛隊

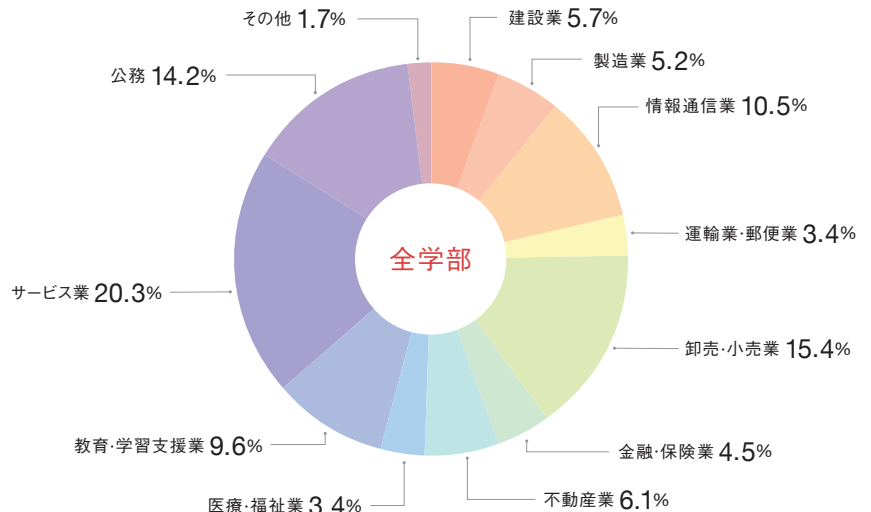
21世紀アジア学部

青山商事(株)
 (株)カブコン
 (株)京王百貨店
 (株)京王プラザホテル
 (株)湖池屋
 静岡ガス(株)
 積水ハウス(株)
 総合警備保障(株)
 日本空港サービス(株)
 日本通運(株)
 東日本電信電話(株)
 フェデラルエクスプレスジャパン(同)
 本田技研工業(株)
 (株)マイナビ
 (株)横浜八景島
 リゾートトラスト(株)
 警視庁ほか都道府県警察
 東京消防庁ほか消防
 都道府県市区町村公務員

経営学部

アイリスオーヤマ(株)
 (株)エイブル
 NTTファイナンス(株)
 九州旅客鉄道(株)
 住友生命保険(相)
 住友不動産販売(株)
 全国健康保険協会
 (株)ニトリ
 (株)日立製作所
 (株)ビックカメラ
 (株)船井総合研究所
 (株)マイナビ
 三井不動産リアルティ(株)
 日本精工(株)
 日本赤十字社
 日本年金機構
 (株)ヨドバシカメラ
 警視庁ほか都道府県警察
 都道府県市区町村公務員

全学部 業種別就職割合 (令和4年度)



研究データ

博士学位授与者数

(単位:人)

区分	令和3年度	令和4年度	累計
課程博士授与者数	3	4	68
論文博士授与者数	3	2	58
合計	6	6	126

科学研究費助成事業(科研費)交付額

(単位:千円)

種目	令和4年度		令和5年度*	
	件数	金額	件数	金額
新学術領域研究	1	1,300	—	—
基盤研究(B)	7	20,150	7	40,950
基盤研究(C)	38	42,380	43	43,979
挑戦的研究(萌芽)	1	1,170	—	—
若手研究	9	6,630	9	8,450
研究活動スタート支援	—	—	—	—
研究成果公開促進費(学術図書)	—	—	—	—
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	—	—	—	—
奨励研究	—	—	—	—
計	56	71,630	59	93,379

※ 令和5年4月1日現在

外部資金受入状況

(単位:千円)

区分	令和3年度*		令和4年度	
	件数	金額	件数	金額
受託研究・共同研究	8	15,986	13	14,583
奨学寄附金	3	1,790	3	2,300
助成金等	9	32,798	14	53,041
計	20	50,574	30	69,924

※ 令和4年3月31日のデータに基づく

特許出願件数

(単位:件)

	令和3年度	令和4年度
単独出願	2	7
共同出願	2	0
計	4	7

特許保有件数

(単位:件)

	令和3年度	令和4年度
保有件数	5	5

図書館データ

図書所蔵数

(単位:冊)

	和書	洋書	合計
世田谷	491,085	169,091	660,176
町田	144,596	29,513	174,109
多摩	41,667	9,126	50,793

雑誌所蔵数

(単位:冊)

	和書	洋書	合計
世田谷	6,207	1,564	7,771
町田	691	287	978
多摩	372	100	472

科研費

科研費は、人文学・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、独創的・先駆的な研究に対し助成を行う文部科学省および独立行政法人日本学術振興会の事業

受託研究

企業等から委託を受けて行う研究

共同研究

企業等と共同で行う研究

奨学寄附金

企業や篤志家などから寄附金を受け入れて、学術研究や教育の充実・発展に活用する制度

助成金等

国の競争的資金や財団等の公募で採択された研究費

図書館座席数

(単位:席)

世田谷	787
町田	423
多摩	211
合計	1,421



財務状況

令和4年度 資金収支計算書

収入の部		(単位:百万円)
科目	決算額	
学生生徒等納付金・手数料収入	16,200	
寄付金収入	104	
補助金収入	2,028	
その他の収入	6,770	
資金収入調整勘定	△ 4,339	
前年度繰越支払資金	24,131	
収入の部合計	44,894	

支出の部		(単位:百万円)
科目	決算額	
人件費支出	9,367	
教育研究経費支出	5,530	
管理経費支出	1,130	
施設・設備関係支出	1,237	
その他の支出	8,192	
資金支出調整勘定	△ 1,514	
翌年度繰越支払資金	20,953	
支出の部合計	44,894	

令和4年度 活動区分資金収支計算書

科目		決算額	(単位:百万円)
教育活動資金収入計		19,423	
教育活動資金支出計		15,966	
差引		3,457	
調整勘定等		474	
教育活動資金収支差額		3,932	
施設整備等活動資金収入計		22	
施設整備等活動資金支出計		1,737	
差引		△ 1,714	
調整勘定等		△ 163	
施設整備等活動資金収支差額		△ 1,877	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		2,054	
その他の活動資金収入計		1,245	
その他の活動資金支出計		6,480	
差引		△ 5,235	
調整勘定等		2	
その他の活動資金収支差額		△ 5,233	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 3,178	
前年度繰越支払資金		24,131	
翌年度繰越支払資金		20,953	

令和4年度 事業活動収支計算書(事業活動収入構成比率)

科目	決算額	比率	(単位:百万円)
教育活動収入計	19,433	99.1%	
教育活動支出計	17,741	90.4%	
教育活動収支差額	1,693	—	
教育活動外収入計	112	0.6%	
教育活動外支出計	21	0.1%	
教育活動外収支差額	92	—	
経常収支差額	1,784	—	
特別収入計	72	0.4%	
特別支出計	87	0.4%	
特別収支差額	△ 15	—	
基本金組入前当年度収支差額	1,769	9.0%	
基本金組入額合計	△ 960	△ 4.9%	
当年度収支差額	809	4.1%	
前年度繰越収支差額	△ 20,493	—	
基本金取崩額	0	—	
翌年度繰越収支差額	△ 19,683	—	
(参考)			
事業活動収入計	19,618	100.0%	
事業活動支出計	17,848	91.0%	

貸借対照表(令和5年3月31日現在)

資産の部		(単位:百万円)
科目	金額	
固定資産	58,251	
有形固定資産	39,007	
特定資産	3,369	
その他の固定資産	15,874	
流動資産	22,420	
資産の部合計	80,671	

負債・純資産の部		(単位:百万円)
科目	金額	
固定負債	6,693	
流動負債	5,855	
純資産	68,122	
基本金	87,805	
繰越収支差額	△ 19,683	
負債及び純資産の部合計	80,671	

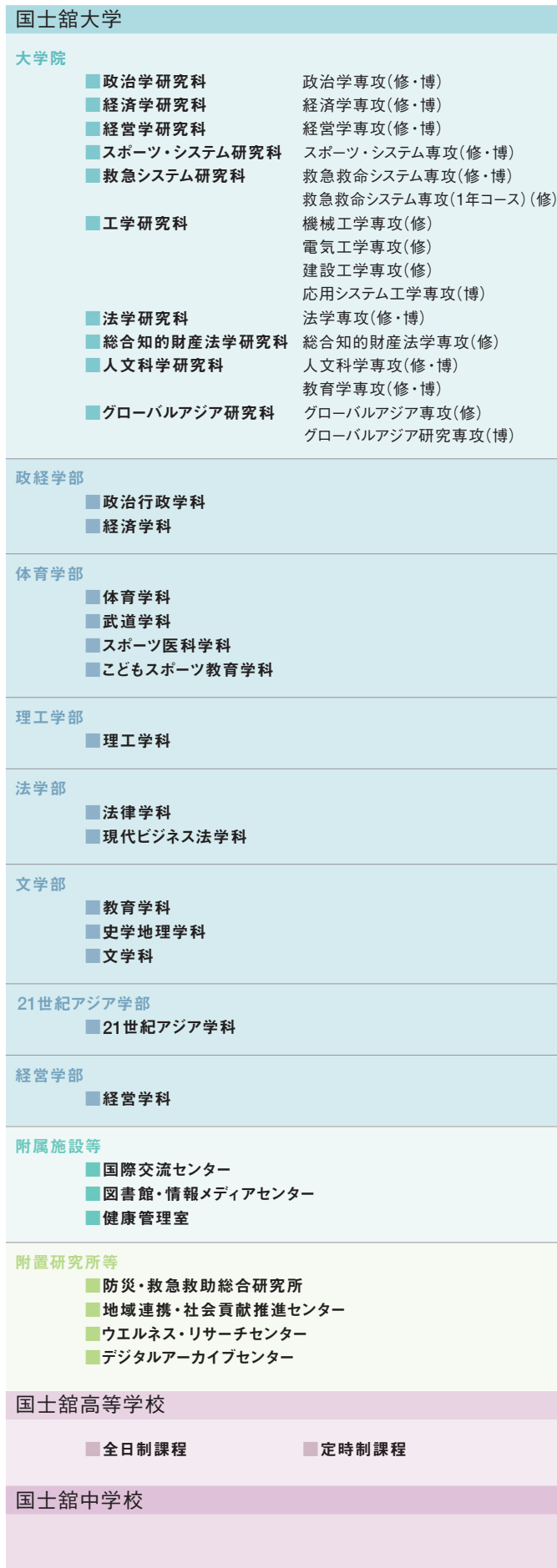
* 表中の決算額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計金額が計算上一致しない場合があります。

* 「活動区分資金収支計算書」は、資金収支計算書の決算額を3つの活動に区分した附属表です。学校の本業である「教育活動」に係る学納金、人件費、教育研究経費等の収支、「施設整備等活動」として施設設備投資とその財源の収支、「その他の活動」として財務活動、収益事業に係る活動、預り金の受払い等を計上しています。

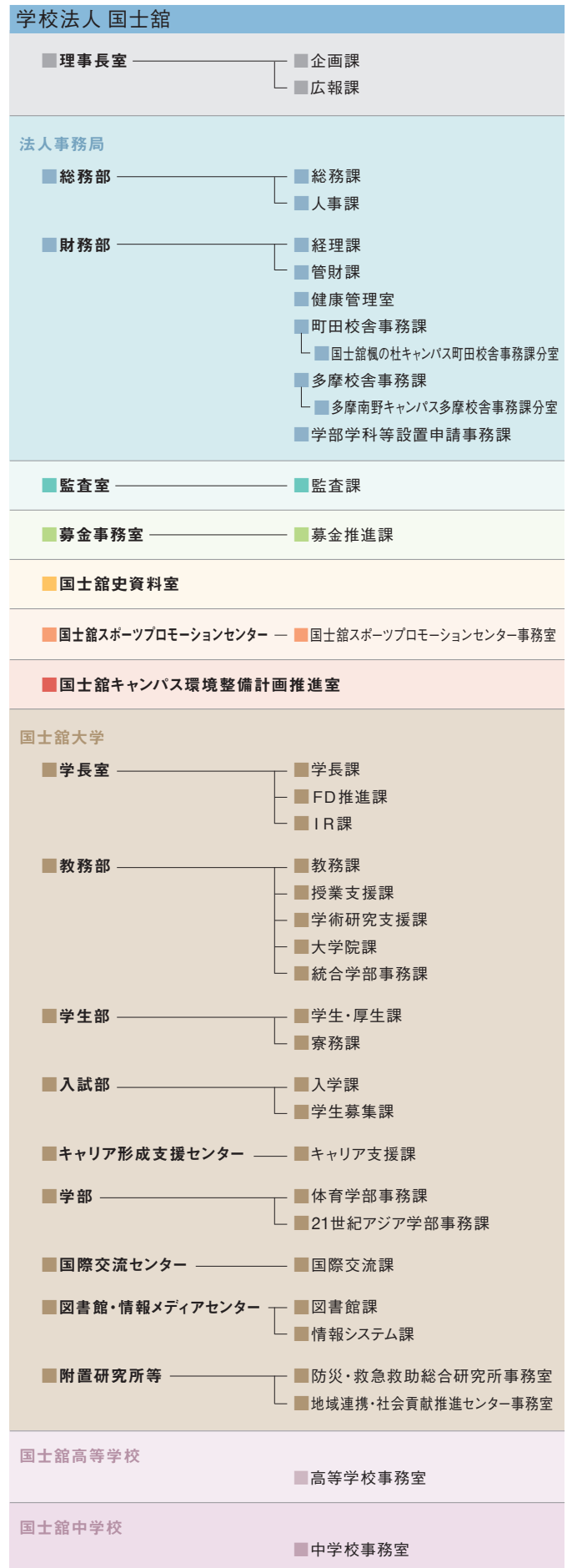
* 「事業活動収支計算書」は、学校法人における事業活動を経常的なものと臨時的なものに区分し、さらに経常的なものは「教育(研究を含む)活動収支」と「教育活動外収支」に区分し、また臨時的なものは「特別収支」として把握することとしています。基本金組入前当年度収支差額は、学校の採算性を示す企業会計の当期利益率に近い比率です。なお詳細は、本学のホームページで公開しています。

組織

教育研究組織図



事務組織図



キャンパス・施設概要



教育研究機関(修学キャンパス)

世田谷キャンパス



〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1
TEL 03-5481-3111(代表)

世田谷キャンパスへのアクセス

- ▶小田急線梅ヶ丘駅下車、徒歩約9分
- ▶東急世田谷線松陰神社前駅または世田谷駅下車、徒歩約6分

国士館高等学校・中学校

〒154-8553 東京都世田谷区若林4-32-1
TEL 03-5481-3131(高等学校代表)
TEL 03-5481-3114(中学校代表)

町田キャンパス



〒195-8550 東京都町田市広袴1-1-1
TEL 042-735-3111(代表)

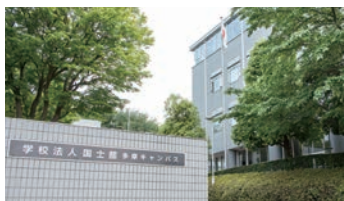
町田キャンパスへのアクセス

- ▶小田急線鶴川駅前からスクールバス(無料)
- ▶小田急線鶴川駅バスターミナル2番乗り場から、「鶴川団地」行きバスで約9分、「国士館大学前」下車

鶴川駅スクールバス乗り場
〈鶴川駅から町田キャンパスまで〉

鶴川駅の北口改札口を出て、まっすぐ進み鶴川街道(バス通り)に出たところ。
〈乗車時間:約10分〉

多摩キャンパス



〒206-8515 東京都多摩市永山7-3-1
TEL 042-339-7200(代表)

多摩キャンパスへのアクセス

- ▶小田急多摩線・京王相模原線永山駅前からスクールバス(無料)
- ▶小田急多摩線・京王相模原線永山駅バスターミナル3番乗り場から、「鶴川駅」「永山五丁目」「京王多摩車庫前」行きバスで、「永山高校」下車、徒歩約7分

永山駅スクールバス乗り場
〈永山駅から多摩キャンパスまで〉

永山駅改札口を出て、階段を降りる。左手にある交番の前方に見える金属製のオブジェが目印。
〈乗車時間:約10分〉

修学支援施設

国士館楓の杜キャンパス

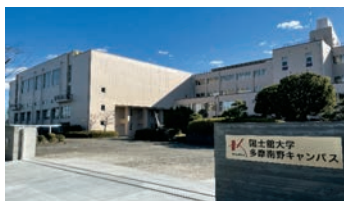


〒195-0063 東京都町田市野津田町 3101
TEL 042-734-0050(町田校舎事務課分室) TEL 042-736-2300(町田校舎事務課)

国士館楓の杜キャンパスへのアクセス

- ▶小田急線鶴川駅バスターミナル0番乗り場から、「やくし台センター」行きバスで、終点「やくし台センター」下車、徒歩約5分
- ▶小田急線鶴川駅バスターミナル0番乗り場から、「町田駅」行きバスで、「野津田神社入口」下車、徒歩約12分
- ▶小田急線町田駅北口21番乗り場から、「鶴川駅」「野津田車庫」行きバスで、「野津田神社入口」下車、徒歩約12分

多摩南野キャンパス



〒206-0032 東京都多摩市南野2-11-1
TEL 042-401-8710(多摩校舎事務課分室)

多摩南野キャンパスへのアクセス

- ▶小田急多摩線・京王相模原線多摩センター駅 バスターミナル8番乗り場から、多01、多03、多04、桜46、永65、バスターミナル10番乗り場から、多05 「恵泉女学園大学入口」下車、徒歩約2分
- ▶小田急多摩線・京王相模原線永山駅 バスターミナル1番乗り場から、永65 「恵泉女学園大学入口」下車、徒歩約1分
- ▶小田急線鶴川駅 バスターミナル5番乗り場から、多04 「恵泉女学園大学入口」下車、徒歩約1分

キャンパス・施設概要

世田谷キャンパス 最先端設備が揃う渋谷・新宿から30分の立地ながら、静かな学びの環境

大学院: 政治学研究科/経済学研究科/経営学研究科/工学研究科/法学研究科/総合知的財産法学研究科/人文科学研究科
学 部: 政経学部/理工学部/法学部/文学部/経営学部

- a 正門受付
- b 中央図書館
- c 1号館
- d 国士館大講堂
- e 5号館
- f 6号館
- g 7号館
- h 8号館
- i 10号館
- j 国士館大学 地域交流文化センター
- k 34号館(梅ヶ丘校舎)
- l 高等学校・中学校校舎
- m 24号館
- n グラウンド
- o 体育・武道館
- p メイプルセンチュリーホール
- q 38号棟
- r クラブ部室
- s ハイテク・リサーチ・センター棟
- t 学園祭実行委員会室
- u 柴田会館
- v 国士館大学ゲストハウス



土地面積: 56,772㎡ / 建物面積: 109,421㎡

町田キャンパス 東京・町田の丘陵に広がる、緑が爽やかな環境

大学院: グローバルアジア研究科
学 部: 体育学部(こどもスポーツ教育学科)/21世紀アジア学部

- a 正門受付
- b 中央広場
- c 11号館
- d 12号館
- e 13号館
- f 14号館
- g 15号館
- h 30号館
- i 野球場
- j クラブ部室A棟
- k 第2柔道場
- l 第3体育館
- m 第4体育館
- n 鶴川メイプルホール
- o 学園祭実行委員会室
- p 書籍・文具店
- q テニスコート/ゴルフ教場/弓道場
- r 多目的グラウンド
- s 多目的グラウンド管理棟
- t 屋内野球練習場



土地面積: 90,019㎡ / 建物面積: 36,388㎡

多摩キャンパス 最新の各種スポーツ施設が整う広大な校地

大学院: スポーツ・システム研究科 / 救急システム研究科
 学 部: 体育学部(体育学科・武道学科・スポーツ医科学科)

- a 18号館(教室・管理棟)
- b 体育館棟
- c 武道棟
- d 21号館(教室・研究棟)
- e 25号館(教室・実習棟)
- f 食堂棟
- g メイプルセンチュリーセンター多摩
- h 学園祭実行委員会室
- i 相撲教場
- j ラグビー・アメリカンフットボール場
- k 多目的グラウンド
- l テニスコート
- m 陸上競技場
- n 管理A棟
- o 管理B棟
- p 管理D棟
- q 野球場
- r 多摩球心寮



土地面積: 160,749㎡ / 建物面積: 25,423㎡

国士館楓の杜キャンパス

JFA(日本サッカー協会)公認グラウンドを備える緑豊かな校地



土地面積: 42,335㎡ / 建物面積: 2,306㎡

- a グラウンド
- b サブグラウンド
- c 39号館
- d 40号館
- e 多目的ホール
- f シャワー棟

多摩南野キャンパス

防災教育研究の拠点となる都内最大の丘陵地帯に位置する校地



土地面積: 21,194㎡ / 建物面積: 13,464㎡

- a A棟
- b B棟
- c F棟

しばた・とくじろう

1890.12.20—1973.1.26

福岡県那珂郡別所村(現・那珂川市別所)に生まれる。15歳で上京し、苦学の末に早稲田大学専門部を卒業。在学時より同郷の頭山満、野田卯太郎、中野正剛らの知遇を得た。1917年、26歳で同志とともに国士館を創立。国士館を法人化するとともに、諸学校を設置して多くの青少年に門戸を開き、文武両道の精神を基本とする人材の育成に努める。戦災で校舎を失う苦難を乗り越え、国士館の再建復興をはかり、中学校・高等学校・大学・大学院を一貫する総合学園の基礎を築いた。教育にすべてを捧げた柴田の志は、今なお脈々と受け継がれている。1973年、享年84で永眠。正四位勲二等瑞宝章。経済学博士



教育に生涯を捧げた気魄の人
国士館創業者
柴田徳次郎

若き創業者

国士館を創立した時、柴田は弱冠26歳、無名の青年でした。貧しい農家に生まれた柴田は、幼少より困窮する人々を助けたいとの志を抱き、勉学のため15歳で単身上京し、牛乳配達など苦学の末に早稲田大学を卒業します。当時の日本は、急速に近代化を遂げた一方で、伝統文化の軽視や貧富の拡大などにより社会は疲弊していました。柴田が抱いた志は、社会の歪みを改めたいという信念となり、同世代の同志たちが集います。そして1917年、次の時代を担う青年層への教育に着目して、新たな教育機関・国士館を創立するのです。



1917年 国士館開校式

時代と人をつかむ

国士館の教育は「真の智識人」の育成にあり、新たな時代に相応しいその趣旨に多くの支援者を得ました。それは、従来の形式的な近代的学術の教授のみならず、軽視されつつある伝統文化に基づいた人格形成を主眼とした教育にありました。地位も財産もない若き柴田らは、将来の日本社会を担う国士館の理想を説き、頭山満、野田卯太郎、渋沢栄一、徳富蘇峰らをはじめ、明治期に活躍した多くの有識者の支援を得ます。新時代を担う教育に賛同する支援者により、国士館は教育の環境を整えていくのです。



1926年 創立期の支援者(前列左より頭山、野田、渋沢、徳富、後列最右に柴田)

生涯、教育者として

柴田は、国士館の創立以来、約60年にわたり教育の場に立ち続けました。大学の創設以降、学生・生徒も急増し総合学園へと発展を遂げる国士館にあって、柴田は、経営への尽力とともに、毎週の館長訓話や一人一人への卒業面接をみずから行うなど、個々の人間力を高める独自の教育を展開します。晩年、脳溢血を患いながらも訓話に登壇した柴田は、第一声で「学生諸君、会いたかったよ」と発し、その場の学生らは皆、涙したといいます。国士館の教育に生涯を捧げた柴田は、厳しくも慈愛に満ちた教育者でした。



1965年 館長訓話

1917
大正6年

東京・麻布に私塾「国士館」を創立

1919
大正8年

世田谷へ移転、世田谷校舎(現世田谷キャンパス)開設
財団法人国士館設置(現在地)
国士館高等部設置(昭和5年3月閉校)

1923
大正12年

国士館中等部設置(大正14年3月閉校)

1925
大正14年

国士館中学校設置(昭和24年3月廃止)

1926
大正15年

国士館商業学校設置(昭和24年3月廃止)

1929
昭和4年

国士館専門学校(国漢剣道科・柔道科)設置
(昭和30年3月廃止)

1930
昭和5年

国士館高等拓殖学校設置(昭和9年11月廃止)

1942
昭和17年

国士館高等拓殖学校(満蒙支科・南洋科)設置
(昭和20年12月廃止)

1945
昭和20年

戦禍により校舎焼失

1946
昭和21年

法人・学校名称を至徳学園に変更
(至徳専門学校、至徳商業学校、至徳中学校となる)

1947
昭和22年

至徳中学校(新制3年制)設置

1948
昭和23年

至徳商業高等学校(新制3年制)設置(昭和24年3月廃止)
至徳高等学校(全日制普通科＝新制3年制、
定時制商業科＝新制4年制)設置

1951
昭和26年

財団法人至徳学園から学校法人至徳学園に変更

1953
昭和28年

学校法人至徳学園を学校法人国士館の名称に復す(国士館高等学校、
国士館中学校となる。専門学校は至徳のまま、昭和30年3月廃止)
国士館短期大学(2年制)設置
国文科・経済科二部設置(経済科二部昭和41年3月廃止、
国文科平成15年3月廃止)

1956
昭和31年

短期大学に体育科(3年制)設置(昭和35年3月廃止)

1958
昭和33年

国士館大学設置
体育学部(体育学科)設置

1961
昭和36年

政経学部(政治学科・経済学科)設置

1962
昭和37年

政経学部に経営学科設置

1963
昭和38年

工学部(機械工学科・電気工学科)設置
(平成19年4月理工工学部に改組、平成25年3月廃止)

1964
昭和39年

工学部に土木工学科・建築学科設置
太宰府校地取得(平成25年4月閉鎖)

1965
昭和40年

国士館大学大学院設置
政治学研究科・経済学研究科(各修士・博士)設置
政経学部二部(政治学科・経済学科)設置(平成19年3月廃止)

1966
昭和41年

鶴川校舎(鶴川キャンパス)開設
法学部(法律学科)設置
文学部(教育学科・史学地理学科・文学科)設置

1974
昭和49年

教養部設置(平成8年3月廃止)

1992
平成4年

多摩校舎(現多摩キャンパス)開設
体育学部移転

1994
平成6年

大学院に工学研究科(修士)設置
国士館高等学校・中学校男女共学制導入(新校舎完成)
高等学校に定時制普通科(3年制)設置

1995
平成7年

大学院に法学研究科(修士)設置
国士館大学福祉専門学校(介護福祉学科)設置
(平成19年3月廃止)

1997
平成9年

大学院に経営学研究科(修士)設置

1998
平成10年

中央図書館完成

1999
平成11年

大学院経営学研究科・工学研究科・法学研究科に
博士課程設置

2000
平成12年

体育学部に武道学科・スポーツ医科学科設置
高等学校に通信制普通科設置(令和元年12月廃止)

2001
平成13年

法学部に現代ビジネス法学科、大学院にスポーツ・システム研究科
(修士)・人文科学研究科(修士)設置
工学部電気工学科を電気電子工学科に名称変更

2002
平成14年

21世紀アジア学部(21世紀アジア学科)設置
工学部機械工学科を機械情報工学科、土木工学科を
都市システム工学科、建築学科を建築デザイン工学科に名称変更

2003
平成15年

大学院スポーツ・システム研究科・人文科学研究科に
博士課程設置
政経学部を昼夜開講制に改組(平成20年4月撤廃)

2004
平成16年

高等学校定時制普通科を昼間制に移行(男女共学制導入)

2006
平成18年

大学院に総合知的財産法學研究科(修士)、
グローバルアジア研究科(修士・博士)設置
国士館大学地域交流文化センター完成

2007
平成19年

工学部を改組し理工工学部(理工学科)設置

2008
平成20年

世田谷キャンパスに34号館(梅ヶ丘校舎)完成
体育学部にこどもスポーツ教育学科設置

2009
平成21年

鶴川キャンパスを町田キャンパスに名称変更

2010
平成22年

大学院に救急システム研究科(修士)設置

2011
平成23年

経営学部(経営学科)設置

2013
平成25年

世田谷キャンパスにメイプルセンチュリーホール完成
大学院救急システム研究科に博士課程設置

2016
平成28年

政経学部政治学科を政治行政学科に名称変更
多摩キャンパスにメイプルセンチュリーセンター多摩完成

2017
平成29年

国士館創立100周年
国士館大講堂・国登録有形文化財(建造物)登録

2020
令和2年

国士館楓の杜キャンパス開設

2022
令和4年

多摩南野キャンパス開設

設置学校の変遷

1917 (大正6年)

1955 (昭和30年)

1965 (昭和40年)

1975 (昭和50年)



1985 (昭和60年)

1995 (平成7年)

2005 (平成17年)

2015 (平成27年)

学校法人 国士館

1994.4 工学研究科 (修) 1999.4 (博)

1995.4 法学研究科 (修) 1999.4 (博)

1997.4 経営学研究科 (修) 1999.4 (博)

2001.4 スポーツ・システム研究科 (修) 2003.4 (博)

2001.4 人文科学研究科 (修) 2003.4 (博)

2006.4 総合知的財産法学研究科 (修)

2006.4 グローバルアジア研究科 (修・博)

2010.4 救急システム研究科 (修) 2013.4 (博)

2000.4 武道学科

2000.4 スポーツ医科学科

2008.4 こどもスポーツ教育学科

→ 2003.4 政経学部

(2003.4 昼夜開講制導入 2008.4 昼夜開講制撤廃) → 2016.4 政治行政学系

(2003.4 昼夜開講制導入 2008.4 昼夜開講制撤廃)

2017.3 廃止

2007.3 廃止

}} 2007.4 理工学部 (2013.3 工学部廃止)

→ 2002.4 機械情報工学科

}} 2007.4 理工学科

→ 2001.4 電気電子工学科

}} ・機械工学系

・都市ランド

→ 2014.4 まちづくり学系

→ 2002.4 都市システム工学科

}} ・電子情報学系

・スケープ学系

→ 2019.4 人間情報学系

→ 2002.4 建築デザイン工学科

}} ・建築学系

・健康医工学系

→ 基礎理学系

2001.4 現代ビジネス法学科 (2006.4 昼夜開講制撤廃)

}} 2017.4 教育学科

(2017.4 募集停止) }} (3コース

}} (2018.4 2コース)

→ 2004.4 考古・日本史学専攻

}} 2017.4 史学地理学科

(2017.4 募集停止) }} (3コース

}} (2018.4 2コース)

→ 2004.4 地理・環境専攻

}}

2017.4 文学科

→ 2004.4 中国語・中国文学専攻 (2017.4 募集停止) }} (2コース

}} (2018.4 1コース)

→ 2004.4 日本文学・文化専攻

}}

2002.4 21世紀アジア学部

2002.4 21世紀アジア学科

2011.4 経営学部

2011.4 経営学科

1996.3 廃止

2003.3 廃止

(1994.4 男女共学制導入)

(1997.3 休止)

2006.8 廃止

2006.8 廃止

2006.8 廃止

1995.4 情報理数科

2006.8 廃止 (2005.3 休止)

(1996.3 休止)

2006.8 廃止

1994.4 普通科 (定時制)

(2004.4 男女共学制導入)

2000.4 普通科 (通信制)

(2018.3 休止)

2019.12 廃止

(1994.4 男女共学制導入)

国士館大学福祉専門学校

1995.4 介護福祉学科

2007.3 廃止

KOKUSHIKAN GENERAL INFORMATION 2023

人と社会を支える力



学校法人 国士館

国士館要覧2023

発行日 …… 2023(令和5)年7月1日
発行 …… 学校法人国士館
編集 …… 理事長室広報課

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

Tel 03-5481-3115

<https://www.kokushikan.ac.jp/>

本要覧は2023年5月1日現在の情報に基づいています。

